

平成27年度施策評価調書

整理番号	19
評価担当課	農務課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	多様でゆとりのある農業経営の促進		
総合計画の位置づけ	基本目標		創造力と活力にあふれたまちづくり
	主要施策		農業・農村の振興

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	農業者がゆとりある農業経営を実現するため、高収益な作物の導入や、農作業の効率化・コスト削減による経営体質の強化を促進するとともに、作業受委託や酪農ヘルパー等の利用による農作業負担の軽減を図る。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	農業経営安定のため、より収益性の高い作物の導入に向けた試験栽培を実施すると共に、土壌診断に基づく肥培管理の指導により農作物の品質・収量の向上を図る。 また、集落営農の組織化や作業受委託の推進及び市営牧場の運営により農作業負担の軽減を図ると共に、酪農ヘルパー事業による休日の確保を図っている。
施策の課題	地域における農業後継者の減少により、それを補完する作業受託や酪農ヘルパーの人材確保が課題となっている。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H24	H25	H26	目標年度(年度)
酪農ヘルパー利用農家戸数	ヘルパー利用農家数	目標値	29	29	29	29
		実績値	28	29	28	
		進捗率	97%	100%	97%	
農作業受託団体数	農作業を受託する団体(個人)数	目標値	30	30	30	
		実績値	29	32	33	
		進捗率	97%	107%	110%	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
A	酪農ヘルパー制度の利用や農作業受委託による農作業負担の軽減図られている。 土壌診断にもとづく肥培管理や、栽培技術の指導により適切な栽培に	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

今後も関係機関・団体の連携により取組を継続していく。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

1次評価のとおり

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H26年度実施事業

事業番号	事務事業名	事業の概要	H26決算額	1次評価						外部評価	2次評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	酪農ヘルパー事業	酪農ヘルパー利用組合補助金	1,430	a	a	a	a	a	A		
2	名寄市営牧場・母子里地区共同牧場管理運営事業	牧場運営に係る委託事業	16,660	a	b	a	a	a	A		
3	名寄市食のモデル地域育成事業	もち米をテーマに地域資源の掘り起こしによる再構築を図る	5,365	a	a	a	a	b	A		
4	農業支援システム定着促進事業	作業受委託の促進のため経費の一部を助成	2,000	a	a	a	a	a	A		
5	農業振興センター実証試験・展示事業	新規作物の試験栽培などによる実証を行う	14,923	a	a	a	a	a	A		
6	農業振興センター土壌分析事業	適切な肥培管理を行うために土壌分析を実施し指導を行う	924	a	a	a	a	a	A		
7	農業振興センター組織培養事業	組織培養技術による優良種苗の供給を行う	4,780	a	a	a	a	a	A		

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

--

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	農務課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	酪農ヘルパー事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標		想像力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	多様でゆとりある農業経営の促進
		実施計画事業	2	経営支援システムの充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	酪農家の定期的な休暇による心身の静養を確保し、酪農経営の安定と生活向上を図る。				
対象(何を又は誰を)	酪農家				
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	道北なよろ酪農ヘルパー利用組合に補助金を交付し、安定的な運営を支援する。				
意図(どのような成果を期待しているか)	酪農ヘルパー派遣による酪農家支援				
事業実施主体	道北なよろ酪農ヘルパー利用組合				
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等	請負 その他()
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有(終期年度)	無
根拠法令・条例等					

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 利用農家戸数	戸	目標	29	29	29	28	
			実績	28	29	28		
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1 ヘルパー稼働率	%	目標	90	90	90	90	
			実績	90.7	90.2	97.6		
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	1,430	1,430	1,430	1,430	ヘルパー利用組合補助金 1,430千円
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	1,430	1,430	1,430	1,430	
人件費	0	0	0	0	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	
総事業費	1,430	1,430	1,430	1,430	
対前年比(%)	—	100	100	100	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	1,430	1,430	1,430	
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	酪農家戸数の減少
改善点	指摘事項 有 () ---

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	酪農家の定期的な休暇による心身の静養を確保し、酪農経営の安定と生活向上を図るため必要である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	酪農家の作業負担の軽減にはヘルパー派遣による方法が有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	利用組合により適正に運営されている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	利用組合により適正に運営されている。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	ヘルパーの稼働率が9割を超え、効率的な運営がされている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	酪農家の定期的な休暇の確保、作業負担の軽減による生活向上のためにはヘルパー制度が必要であり、その運営に対して市として補助することにより、安定的な運営に寄与していることから事業の継続が必要である。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	2
評価担当課・係・職名・氏名	農務課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	名寄市営牧野・母子里地区共同牧場管理運営事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標		想像力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	多様でゆとりある農業経営の促進
		実施計画事業	2	経営支援システムの充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	牧場の運営により、畜産農家における優秀な後継牛の育成、生産コストの低減、作業負担の軽減により畜産経営の安定を図る			
対象(何を又は誰を)	酪農家			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	牧場の適正な管理・運営により預託を受けた乳用牛を育成			
意図(どのような成果を期待しているか)	畜産農家における優秀な後継牛の育成、生産コストの低減、作業負担の軽減により畜産経営の安定を図る			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有(終期 年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 預託農家戸数 牧場へ預託を行った農家戸数	戸	目標	20	20	20	20	
			実績	20	20	20		
	2	目標						
		実績						
成果指標	1	目標						
		実績						
	2	目標						
		実績						

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	13,682	13,735	16,660	16,537	牧場指定管理	15,750千円
国道支出金					牧場修繕料	523千円
地方債					管理用プレハブ	387千円
その他						
一般財源	13,682	13,735	16,660	16,537		
人件費	668	663	663	663		
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629		
担当職員数	0.10	0.10	0.10	0.10		
総事業費	14,350	14,398	17,323	17,200		
対前年比(%)	—	100	120	99	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	14,350	14,398	17,323	17,200	
	活動指標2					
	活動指標3					

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	酪農家戸数の減少
改善点	指摘事項 有 () ~

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	酪農経営における作業負担の軽減と収益性の向上を図るため、市営牧場による受精対象牛受入が必要である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	b	施設の一部老朽化により、入牧牛のけが防止対策が必要となっている
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	指定管理団体により適正に運営されている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	利用者は条例により定められた使用料を納付する
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	当初の計画どおり利用戸数が達成されている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	牧場を利用することで、酪農家の作業負担の軽減と生産性の向上のため、引き続き牧場の設置が望まれている。また、老朽個所の改善等に取り組みながら、適切に管理運営することが求められている。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	3
評価担当課・係・職名・氏名	経済部農務課農政係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	防衛施設周辺整備事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	多様でゆとりのある農業経営の促進
		実施計画事業		

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	名寄駐屯地周辺の農家は、駐屯地の開設、拡張、射撃場の設置により農用地の減少や移転が余儀なくされ農業収入や山菜採取による農外収入が減少し、また、自衛隊車両の通行による農作業への支障や砂塵が農産物に付着する被害が生じているため農業機械・施設の導入により農業経営の安定を図る。			
対象(何を又は誰を)	対象地区農業者			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	補助事業			
意図(どのような成果を期待しているか)	農業機械・施設の導入によって適期播種・収穫を行い農作物の品質保持と収量の確保を図り、農業経営の安定につなげる。			
事業実施主体	道北なよろ農協			
事業実施方法	直 営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	25 年度	終期設定	有 (終期 29 年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	23,427	23,225	22,972	5,820	補助金額 22,920千円
国道支出金	23,360	23,160	22,920	5,765	・田植機3台
地方債					・ロータリー2台
その他					・クロートラクタ2台
一般財源	67	65	52	55	
人件費	1,337	1,326	1,326	133	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.20	0.20	0.20	0.02	
総事業費	24,764	24,551	24,298	5,953	
対前年比(%)	—	99	99	24	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1				
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？		<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> 国庫補助のため評価対象外 </div>
有効性 目的を達成するための方法として有効か？		
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？		
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？		
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？		

5 1次評価

評価結果	理由	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	4
評価担当課・係・職名・氏名	経済部農務課農政係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	名寄市食のモデル地域育成事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	多様でゆとりのある農業経営の促進
		実施計画事業	5	農畜産物高付加価値化と販路の拡大

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	市民との協働による『もち米の里なよろ』の形成を目的とし、「もっともち米プロジェクト」の展開によって「市民の誇りづくり」「まちのもち食文化づくり」「もち米の新たなマーケットづくり」「プロモーションの展開と名寄のファン(交流人口)づくり」をめざす。			
対象(何を又は誰を)	もち米			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	市民にとってもち米はあまりに身近な農作物であるため、その価値に気が付きにくい面がある。もち米をテーマにした観光振興や交流人口の拡大など、付加価値がもたらす「まちの宝物(地域資源)」として掘り起こして再構築を図る。			
意図(どのような成果を期待しているか)	生産者・学校との連携から学びの機会創出等により「地域学」を展開、もち米に親しむ食文化の仕掛けや飲食店との連携による通年型もち米メニューの開発、食品メーカーとの連携による加工食材の開発、スポーツ分野における新たなもち米商品の開発、名寄産もち米とそれを生み出す名寄というまちのプロモーション及びブランド化。			
事業実施主体	名寄市食のモデル地域実行協議会			
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	25年度	終期設定	有(終期 29年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 もち米メニュー提供店舗	件	目標		7	7	10	
			実績		7	7		
	2 もち米レシピの作成	件	目標		6	12		
			実績		6	12		
	3 もち関連イベントの開催・参加	件	目標		5	12	11	
			実績		5	12	11	
成果指標	1 給食センターもち米消費拡大	kg	目標		2,850	2,850	2,850	8550
			実績	2,150	1,940	1,650		


(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	0	1,000	5,365	3,400	イベント
国道支出金			4,365	2,636	新春もちつき、JOIN移住・交流・地域おこしフェア、国際雪像彫刻大会歓迎会、東京なよろ会歓迎会、ザ・サッポロピアガーデンふるさと応援PR、なよろ産業まつり、風連町体育協会表彰式、サンビアザ物産展、稲葉選手トークライブ、地産地消フェア
地方債			500		
その他			500	764	
一般財源		1,000	500		
人件費	3,342	3,315	3,315	3,315	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.50	0.50	0.50	0.50	
総事業費	3,342	4,315	8,680	6,715	※H26給食センターで赤飯中止があった。
対前年比(%)	-	129	201	77	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1				
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

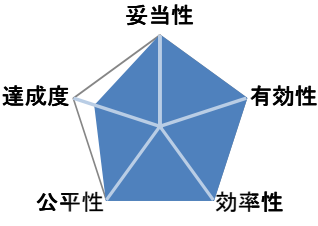
情勢の変化	市民の誇りを育む素材としてのもち米を、その地域資源としての付加価値を広めることが重要。
改善点	指摘事項 有 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	もち米生産日本一の自治体として、その地域資源としての価値を使用したまちづくりを内外から浸透させる必要がある。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	市民講座をはじめ、今後の「もち米サポーター養成塾」も市民一体となった取組をめざしている。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	本事業の経費は主に補助金でありコスト削減は難しい。また、類似事業がないため事業の統廃合も困難。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	名寄市全体のブランド化のための取り組みであり適正と判断。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	もち米の存在を広くPRしつつも地元消費の低迷が見受けられた。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	市民消費の拡大、情報発信、商品開発等もち米日本一をブランド化するためには継続した取組が必要。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	5
評価担当課・係・職名・氏名	経済部農務課農政係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業支援システム定着促進事業			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	多様でゆとりのある農業経営の促進
		実施計画事業	2	経営支援システムの充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	休日の創出によるゆとりある農業経営の実現や担い手の高齢化に対応した労働力の確保並びに生産コストの低減等による経営体の強化に向け農作業受委託への支援を通じ、個別経営を支援する地域農業システムの定着と拡大を図る。			
対象(何を又は誰を)	作業受委託に取組む団体			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	作業受委託に取組む団体に助成			
意図(どのような成果を期待しているか)	個別経営の農作業を補完するための地域システムとして、農作業受委託システムの定着と拡大を推進する。			
事業実施主体	名寄市ファームサポート協議会			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	19年度	終期設定	有(終期 年度) 無
根拠法令・条例等	名寄市農業・農村振興条例 農業支援システム定着促進事業補助金交付要綱			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 登録団体数(個人含む)	団体	目標	30	30	30	30	120
			実績	29	32	33		
	2 委託面積	ha	目標	5,000	5,000	5,000	5,000	20,000
			実績	5,566	5,590	6,635		
3			目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	1,991	1,995	2,000	2,000	補助金 1件 2,000千円 名寄市ファームサポート協議会
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	1,991	1,995	2,000	2,000	
人件費	668	663	663	663	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	0.10	0.10	0.10	0.10	
総事業費	2,659	2,658	2,663	2,663	
対前年比(%)	—	100	100	100	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	92	83	81	総事業費/登録件数
	活動指標2	0	0	0	総事業費/委託面積
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	農業者の高齢化と規模拡大や複合化が進む中、労働力不足やコスト削減が重要になってきている。
改善点	指摘事項 有 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	高齢化が進む中での労働力不足等の解消は、地域農業に必須の課題でありニーズは高まっている。今後の農業機関、団体、地域との役割を分担し、市としての責務を果たす必要がある。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	休日確保や労働力不足等の課題に直接的に解消につながる事業であり有効な手段である。過去に就農した者は、いずれも地域の担い手として活躍している。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	本事業の経費は主に補助金でありコスト削減は難しい。また、類似事業がないため事業の統廃合も困難。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	労働力が不足している農業者が対象になるが、事業の趣旨からやむを得ない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	過去3年の成果指標は予定どおりになっている。。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	高齢化に対応した労働力の確保並びに生産コストの低減等による経営体の強化に向け効果を得られる本事業は継続する必要がある。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	6
評価担当課・係・職名・氏名	農務課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業センター実証試験・展示事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	多様でゆとりある農業経営の促進
		実施計画事業	4	農業振興センターの充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	農業・農村振興条例や農協の振興計画に基づき普及センターや農業試験場など関係機関と連携し、振			
対象(何を又は誰を)	農業者			
手段=活動(仕事)	バイオ技術を活用した優良種苗の供給			
意図(どのような成果を期待しているか)	無病苗の活用による品質・収量の向上			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有(終期 年度) 無
根拠法令・条例等	名寄市農業振興センター条例			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 試験課題数	球	目標	13	12	14	10	
			実績	13	11	13		
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1 試験成績書の件数	戸	目標	7	7	8	6	
			実績	7	7	8		
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	7,314	11,418	14,923	9,800	旅費	202千円
国道支出金	69	39	69	69	消耗品費	1,185千円
地方債					修繕料	1,181千円
その他	3,525	4,577	9,648	8,945	電気料	301千円
一般財源	3,720	6,802	5,206	786	暖房燃料	393千円
人件費	20,049	19,887	19,887	19,887	手数料	4,831千円
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	借上料	353千円
担当職員数	3.00	3.00	3.00	3.00	原材料費	1,793千円
総事業費	27,363	31,305	34,810	29,687	備品購入費	4,684千円
対前年比(%)	—	114	111	85	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	14,350	14,398	17,323	17,200	
	活動指標2					
	活動指標3					

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () —

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	実証展示圃で得られた試験成績は、生産者・生産部会に向けた技術指導の基礎となっている。また、JAや普及センターなどと情報の共有化を図ることにより、技術普及の効率化を図っている。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	試験課題については、生産部会やJA、指導農業士、普及センターなど関係機関との協議により、地域に適応した試験を課題化している。また、試験の実施に係る試験設計については、道試験場等と連携し、効率化を図っている。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	基幹産業である農業の持続的な展開のため、これまでもアスパラガス、スイートコーン、トマト、花卉などの振興の基礎となる試験を行い、関係機関との技術共有により生産現場へフィードバックしており、品質、ロットともに市場からも信頼される責任産地となっている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがはないか？	a	試験に係る経費については、JAからの運営負担金や道農業試験場からの試験委託費を充当している。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	試験課題は計画通り実施され、試験結果についても成績書を作成し、生産部会や関係機関との情報共有を行い、技術普及に向けた敏速な対応を図っている。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	アスパラ、スイートコーン、花卉、トマトなどは、地域に定着し消費地から信頼される責任産地となり農業者の所得向上に寄与している。今後とも、時代に即応した農業技術の基礎となるための試験研究に取り組む必要がある。	
A: 現状のまま継続 B: 進め方を改善 C: 規模・内容を見直し D: 抜本的な見直し (廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	7
評価担当課・係・職名・氏名	農務課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業振興センター土壌分析事業		
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	想像力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1 農業・農村の振興
		基本事業	2 多様でゆとりある農業経営の促進
		実施計画事業	4 農業振興センターの充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	農作物の収穫量・品質の向上を図るため、適切な肥培管理を行う基礎となる土壌分析を実施する。		
対象(何を又は誰を)	農業者		
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	土壌分析の実施による施肥設計、及び技術指導		
意図(どのような成果を期待しているか)	土壌分析結果をもとにした肥培管理による収穫量・品質の向上と肥料コストの低減を図る		
事業実施主体	名寄市		
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()		
事業実施期間	始期	年度	終期設定 有(終期 年度) 無
根拠法令・条例等			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1	件数	目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
成果指標	1	土壌分析 土壌分析を行った件数	目標	1536	1842	2127	4240	
			実績	1536	1842	2127		
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	1,162	1,168	924	1,149	旅費	3千円
国道支出金					消耗品費	576千円
地方債					修繕料	16千円
その他	705	901	861	905	借上料	329千円
一般財源	457	267	63	244		
人件費	2,005	1,989	1,989	1,989		
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629		
担当職員数	0.30	0.30	0.30	0.30		
総事業費	3,167	3,157	2,913	3,138		
対前年比(%)	—	100	92	108	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	14,350	14,398	17,323	17,200	
	活動指標2					
	活動指標3					

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () ---

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	作物に応じた土壌を作ることは、農作物の生産性や品質の向上に必要であり、また土壌状態に合わせた施肥設計により肥料コストの低減が可能となる。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	土壌分析結果は、生産者が適切な肥培管理を行う上での基礎となり、また栽培技術の指導と併せ市内農業者の生産性向上が期待される
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	類似事業はなく、統廃合する事業はない。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	名寄市手数料条例に基づき受益者負担を徴収している。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	当初の計画どおり利用戸数が達成されいる。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	栽培技術の普及や新規作物の導入など、その役割が十分果たされている。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	8
評価担当課・係・職名・氏名	農務課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業振興センター組織培養事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	4	想像力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	2	多様でゆとりある農業経営の促進
		実施計画事業	4	農業振興センターの充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	農業・農村振興条例や農協の振興計画に基づき普及センターや農業試験場など関係機関と連携し、振興作物の導入促進や定着化、既存作物の品質や生産性向上・新技術の現地試験を継続して取り組む。			
対象(何を又は誰を)	農業者			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	バイオ技術を活用した優良種苗の供給			
意図(どのような成果を期待しているか)	無病苗の活用による品質・収量の向上			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有(終期 年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績
活動指標	1		目標						
			実績						
	2		目標						
			実績						
	3		目標						
			実績						
成果指標	1	バイオ苗供給量	球	目標	101,500	85,000	63,000	61,500	
				実績	101,500	85,000	63,000	61,500	
	2			目標					
				実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	5,356	5,142	4,780	4,837	報酬 3,362千円	
国道支出金					共済費 570千円	
地方債					消耗品費 722千円	
その他	2,953	2,843	2,739	2,044	原材料費 126千円	
一般財源	2,403	2,299	2,041	2,793		
人件費	6,683	6,629	6,629	6,629		
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629		
担当職員数	1.00	1.00	1.00	1.00		
総事業費	12,039	11,771	11,409	11,466		
対前年比(%)	—	98	97	100	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	14,350	14,398	17,323	17,200	
	活動指標2					
	活動指標3					

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () ---

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	安心・安全な農産物の生産において、優良種苗の確保は重要であり、利用農家の要望も高い。食用ユリは、地域の特産物であり、露地作物の中でも高収益作物として農家の所得の向上に寄与している。さらに、薬用作物などにおいても、バイオ技術を活用した優良種苗の確保が望まれている。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	食用ユリ栽培や、栄養繁殖由来の薬用作物などにおいて、ウイルスフリー技術の活用は、収穫量・品質において最も有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	食用ユリにおいては、生産部会とJAとの供給計画によりバイオ苗を供給し、生産農家では、活用した種苗により、安定生産が行われている。機械器具においても、メンテナンスに留意し、更新時期の延長を図っている。効率的な培養技術により、コスト削減を行っている。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	組織培養の費用については、JAからの負担金を充当しており、実際に作成された種苗においては、利用者(生産部会)に有料で供給している。薬用作物のバイオ苗においては、実需者との共同研究を締結し、費用負担も徴収している。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	優良種苗の供給については、目標や計画に応じて対応している。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	作物振興において、優良種苗の確保は重要である。特に、バイオ苗の活用は、作物の収量向上や農薬の使用を低減でき、グリーン農業の実現が可能な手法である。また、バイオ技術は、種苗供給のほか、アスパラやスイートコーンなどの発芽メカニズムの解明や生育障害の要因解明など、栽培技術の向上に寄与している。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	9
評価担当課・係・職名・氏名 農務課農村振興係			

1 施策体系と事務事業

事務事業名	中山間地域等直接支払交付金			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	5	豊かさで活力ある農村の構築
	無	実施計画事業	4	農業・農村環境の保全

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	集落協定に基づく共同取組活動を通じて、担い手の育成や生産活動の維持を図り、耕作放棄地の発生			
対象(何を又は誰を)	中山間名寄地域集落協定参加者、風連地域中山間地域集落協議会協定参加者			
手段=活動(仕事)	交付金による助成と共同取組活動の点検・指導を図る			
意図(どのような成果を期待しているか)	集落協定に基づく活動を促進させ、担い手の育成、生産活動の維持を通じ、耕作放棄地の発生防止と農業農村の多面的機能を確保する。			
事業実施主体	中山間名寄地域集落、風連地域中山間地域集落協議会			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	17年度	終期設定	有(終期 年度) (無)
根拠法令・条例等	農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1	耕作放棄地の面積	目標	0	0	0	0	
			実績	0	0	0	0	
	2	新たに発生した耕作放棄地の面積	目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	97,419	97,533	97,533	96,742		
国道支出金	71,661	71,661	71,661	71,633		
地方債						
その他						
一般財源	25,758	25,872	25,872	25,109		
人件費	0	0	0	0		
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629		
担当職員数						
総事業費	97,419	97,533	97,533	96,742		
対前年比(%)	—	100	100	99		
事業コスト						コストの算出方法
活動指標1						
活動指標2						
活動指標3						

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	特になし
改善点	指摘事項 有 () 無 ()

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 国の施策による事業のため評価対象外 </div>
有効性 目的を達成するための方法として有効か？		
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？		
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？		
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？		

5 1次評価

評価結果	理由	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	10
評価担当課・係・職名・氏名	農務課農村振興係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	多面的機能支払交付金(旧 農地・水保全管理支払交付金)			
総合計画の位置づけ	有	基本目標	4	創造力と活力にあふれたまちづくり
		主要施策	1	農業・農村の振興
		基本事業	5	豊かさで活力ある農村の構築
	無	実施計画事業	4	農業・農村環境の保全

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	農業の持続的発展と多面的機能の発揮を図るために、効率的・安定的な農業構造の確立とあわせ、基			
対象(何を又は誰を)	全農家+α(町内会・PTAなど)			
手段=活動(仕事)	活動組織に対し国・道・市が助成を行うことにより、共同活動を促進する。また、活動組織の取組状況の			
意図(どのような成果を期待しているか)	共同活動を促進し、農地・農業用水等の施設の保全を図るとともに農村が有する多面的機能を保全向上する。			
事業実施主体	地域活動組織(10組織)			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	補助等(○)
事業実施期間	始期	19年度	終期設定	有(終期年度) (無)
根拠法令・条例等	農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1	協定農用地での遊休農地	目標	0	0	0	0	
			実績	0	0	0	0	
	2	新たに発生した遊休農地	目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	48,482	42,322	58,275	226,313	
国道支出金	2,067	973	2,067	170,078	
地方債					
その他					
一般財源	46,415	41,349	56,208	56,235	
人件費	0	0	0	0	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数					
総事業費	48,482	42,322	58,275	226,313	
対前年比(%)	—	87	138	388	
事業コスト					コストの算出方法
活動指標1					
活動指標2					
活動指標3					

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	特になし
改善点	指摘事項 有() 無(○)

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 国の施策による事業のため評価対象外 </div>
有効性 目的を達成するための方法として有効か？		
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？		
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？		
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？		

5 1次評価

評価結果	理由	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	19	枝番	11
評価担当課・係・職名・氏名	農務課農村振興係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	農業経営基盤強化利子補給事業		
総合計画の位置づけ	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	基本目標 主要施策 基本事業 実施計画事業	

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	認定農業者による規模拡大・機械購入等にかかる借入資金に対し利子助成を行い、持続的な営農体			
対象(何を又は誰を)	市内農家のうち認定農業者			
手段=活動(仕事)	資金借入者の償還利息に対し道・市が助成を行う。			
意図(どのような成果を期待しているか)	利子補給の実施により、生産者の経営基盤の強化及び再生産費の確保を図る。			
事業実施主体	市内農業者			
事業実施方法	直営	一部委託	全部委託	<input checked="" type="radio"/> 補助等 請負 その他()
事業実施期間	始期	年度	終期設定	<input checked="" type="radio"/> 有 (終期 46年度) ・ 無
根拠法令・条例等	農業経営基盤強化促進法			

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	10,956	9,694	8,501	5,766		
国道支出金	3,830	3,231	2,833	2,882		
地方債						
その他						
一般財源	7,126	6,463	5,668	2,884		
人件費	0	0	0	0		
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629		
担当職員数						
総事業費	10,956	9,694	8,501	5,766		
対前年比(%)	—	88	88	68		
事業コスト						コストの算出方法
活動指標1						
活動指標2						
活動指標3						

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	特になし
改善点	指摘事項 有 (<input checked="" type="radio"/> 無)

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 国の施策による事業のため評価対象外 </div>
有効性 目的を達成するための方法として有効か？		
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？		
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？		
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？		

5 1次評価

評価結果	理由	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等